

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業260社
3. 内 訳：製造業55、卸売業27、小売業42、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：142社（54.6%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－売上DIはプラス水準であったが採算DIは3期連続、業況DIは2期連続のマイナス水準に－
前年同期（2024年10月～12月）と比べた今期（2025年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（2026年1月～3月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲6.2で、前年同期比で23.4ポイント低下しました。主要3項目のうち、売上DIは15期連続のプラス水準で推移しましたが、業況DIは2期連続、採算DIは3期連続のマイナス水準で推移しました。来期は、業況DI、売上DI、採算DIの主要3項目全ての低下とマイナス水準が予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比16.8ポイント低下の▲7.1、採算DIは同9.7ポイント上昇の0、業況DIは同14.0ポイント低下の▲10.7ポイントとなりました。売上DIと業況DIはどちらもマイナスに転じました。

卸売業では、売上DIが同36.0ポイント低下の▲6.6、採算DIは同36.8ポイント低下の▲13.3、業況DIは同30.2ポイント低下の▲6.7となり、いずれも30ポイント以上の大幅な低下となり、マイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同9.7ポイント低下の▲22.2、採算DIは同69.0ポイント低下の▲55.6、業況DIは同70.1ポイント低下の▲38.8となりました。採算DIと業況DIはどちらも約70ポイントの大幅な低下となり、マイナスに転じました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同22.2ポイント低下の9.6、採算DIは同20.0ポイント低下の13.4、業況DIは同6.7ポイント上昇の20.0となりました。

観光業では、売上DIが同34.5ポイントの大幅な低下の22.2、採算DIは同14.8ポイント上昇の14.8、業況DIは同23.4ポイント低下の0となりました。外国人客数DIについては72.5から7.4へ65.1ポイントの大幅な低下となりました。

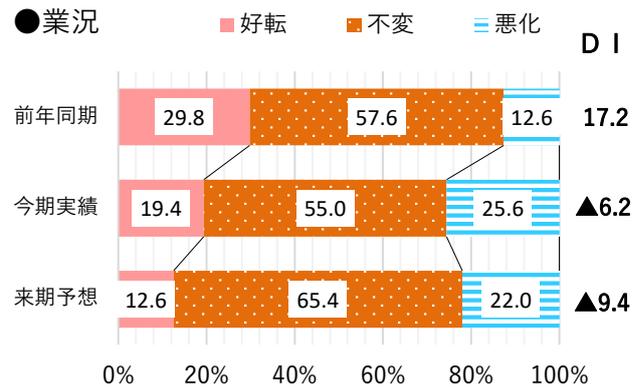
サービス業では、売上DIが同8.3ポイント低下の28.6、採算DIは同15.0ポイント低下の▲9.5となりマイナスに転じました。業況DIは同4.3ポイント上昇の9.5となりました。

建設業では、売上DIが同38.9ポイントの大幅な低下の▲5.6、採算DIは同27.8ポイント低下の▲27.8、業況DIは同36.6ポイントの大幅な低下の▲16.6となり、いずれもマイナスに転じました。

業況、売上、採算

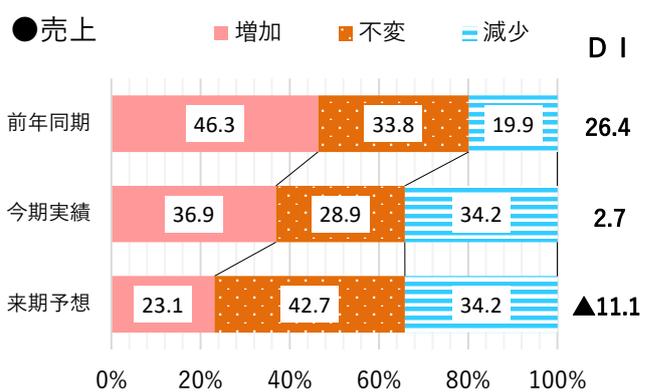
今期（2025.10～12）の業況判断DIは▲6.2で、前年同期（2024.10～12）と比べ23.4ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ3.2ポイント低下すると予想しています。



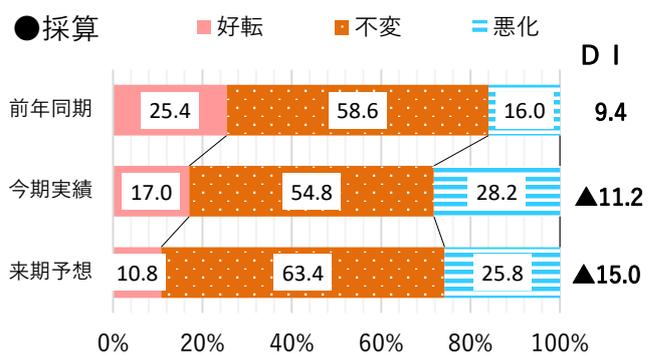
今期の売上DIは2.7で、前年同期と比べ23.7ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ13.8ポイント低下すると予想しています。

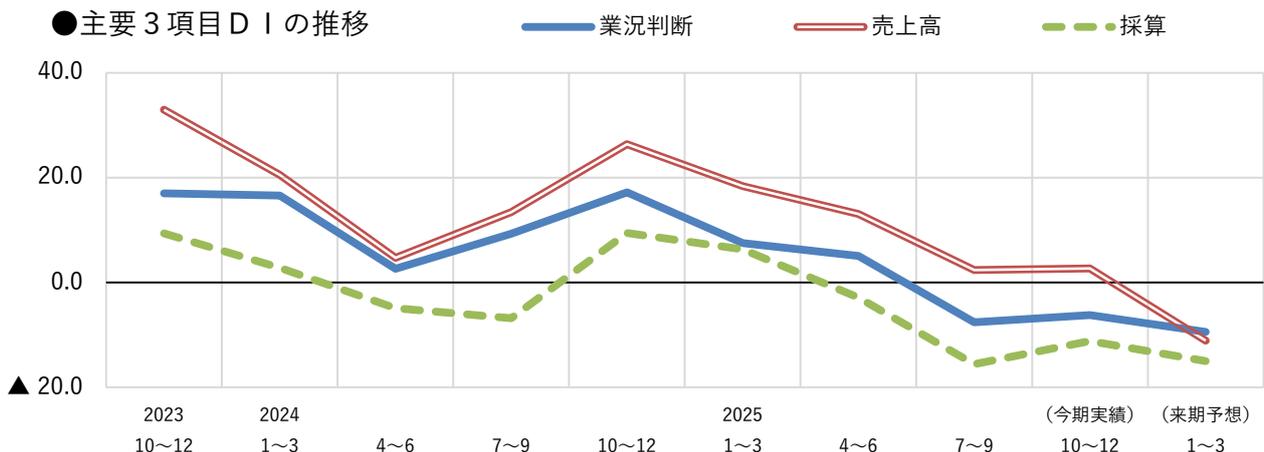


今期の採算DIは▲11.2で、前年同期と比べ20.6ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ3.8ポイント低下すると予想しています。



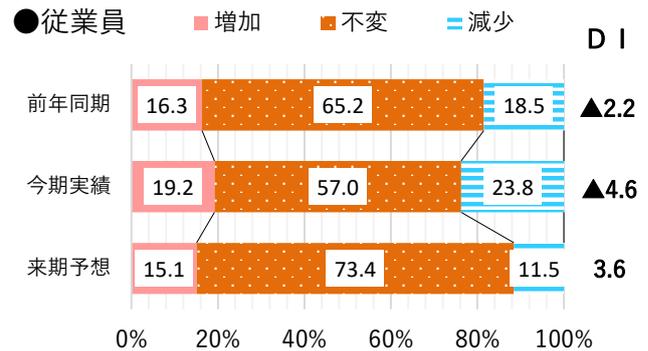
●主要3項目DIの推移



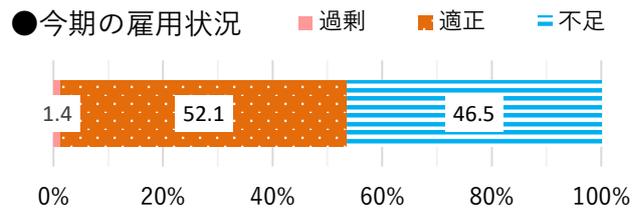
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.6で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ8.2ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.4%、適正であると回答した企業の割合は52.1%、不足していると回答した企業の割合は46.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、38.7%を占めました。

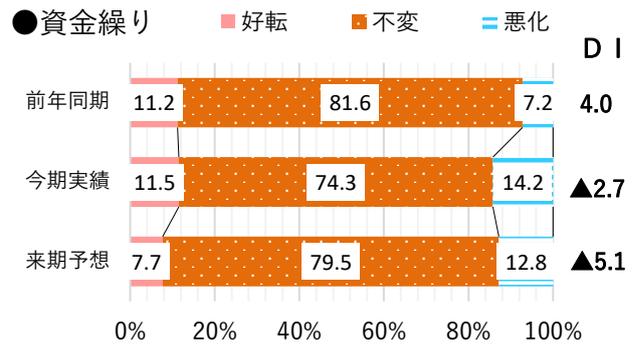
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0.7%
	適正	10.6%
	不足	7.7%
不変だった	過剰	0.0%
	適正	38.7%
	不足	18.3%
減少した	過剰	0.7%
	適正	2.8%
	不足	20.4%

※回答総数142社

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲2.7で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ2.4ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は、48.6%が実施と回答し、前年同期と比べ2.2%上昇しました。

投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「OA機器」（同位）、3位が「建物」でした。

来期は37.3%が設備投資を計画していると回答しています。

